



- 体育会名：関西学院大学体育会バドミントン部
- 創部年：1950年(昭和25年)
- 2025年度部員数：40人(4年9人、3年11人、2年9人、1年11人)

- 同窓倶楽部名：関西学院大学体育会バドミントン部同窓倶楽部
* 関西学院同窓会 公認団体
- 同窓倶楽部通称：関学バドミントン部 OB・OG 会(新月バドミントン倶楽部)
 - 設立年：1972年(昭和47年)
 - 会員数：452人(男性310人、女性142人)
* 物故者含む

1949(昭和24)年、第4回国体のバドミントンオープン競技に兵庫県代表として参加した大園秀生(初代主将)、坂崎洋太郎が50年に入学、2人を中心に創部の働きかけを行い、同年6月に同好会を結成した。初代部長は原田脩一先生。また大園は関西学生バドミントン連盟の設立に参加して委員長を務め、全日本学生連盟の副委員長をも務めた。

その後体育会(当時は運動部)への昇格を目指して各試合に奮闘するも、当時の関学は数多くの部が全国制覇を達成し、関西制覇など当たり前という状況にあり、すぐには昇格が認められなかった。しかし、まず51年6月にクラブ昇格が認められ、さらに52年4月、兵庫・星陵高より武田一徳ら強力な新入生を得て戦績が一気に向上。遂に54年5月に正式に体育会昇格を認められ、本格的な活動が始まった。

また、関東は早大、関東学院大(その後中止)、関西では関大との間に定期対抗戦を開始し現在に至っている。

【第1期の戦績等】 50年～74年頃

51年、関西学生リーグ創設メンバーとして第1回リーグ戦より参加。常に1部リーグにおいて優勝争いを演じる。また個人でも武田一徳はトマス杯日本代表として活躍、関学バドミントン部の名を全国に知らしめた。しかしながら関西学生リーグでの初優勝は63年春季リーグまでの年月を要した。さらにその後も何度か優勝のチャンスはあったもののなかなか優勝には届かず2018年春季の優勝(女子チームは2010年春季に初優勝)まで55年の年月を要することとなる。しかし、個人戦においては多くの関西、西日本学生優勝者を輩出、常に関西学生バドミントン界をリードする存在であった。

女子チームも50年代後半に設立され、60年から69年秋まで関西1部リーグを維持した。

団体 <男子>1963年 関西学生春季リーグ優勝

個人 関西学生選手権優勝者

<男子単>坂崎洋太郎(50年) 武田一徳(54年) 久保川正啓(63年) 橋本元二(64年) 加藤彰(65年)

<女子単>山田伸子(67年)

<男子複>大圃秀生・坂崎洋太郎(50年) 武田一徳・三毛淳裕(54年) 橋本元二・加藤彰(64年)

西日本学生選手権優勝者

<男子単>久保川正啓(62年) 加藤彰(65年)

<男子複>湊谷富夫・小田謙二(67年)

【第2期の戦績等】 75年頃～2004年頃

創部以来、男子は関西1部リーグを守ってきたが、学園紛争の影響などを受け有望選手の獲得が極めて困難な状況に陥り、73年春季リーグにおいて初の2部落ち。その後1部に2度復帰したものの、ともに次の季に最下位に終わる状況で、78年春季リーグ1部を最後に長い冬の時代に入った。その間、最悪時には男子、女子ともに5部リーグまで転落。女子に至ってはメンバー不足で試合にも参加できない時期もあった。しかし、この間もその時々々の現役・OB・OG・指導陣などの可能な限りの努力により、部が存続出来たことは感謝の念に堪えないところである。

団体 個人ともに関西、西日本での優勝なし

【第3期の戦績等】 05年頃～24年

遂に復活した新スポーツ選抜入試制度などにより、男女ともに徐々に戦力が向上していった。07年秋季リーグにおいて、実に男子は29年ぶり、女子は38年ぶりに関西1部リーグに同時昇格、新たな時代に突入した。

その後、女子は関西の上位校に完全に定着。ついに10年春季リーグにおいて念願の関西

リーグ初制覇を達成し、13年には全日本インカレで3位という過去最高成績を収めた。男子は18年春季リーグにて55年ぶりの関西制覇をなしとげ、17年18年の全日本インカレにおいても連続してベスト8に入るという好成績を収めた。その後、コロナ禍によるリーグ戦中止の時期を経て23年春季には3度目の優勝を果たした。男女とも関西においては『常勝関学』の確立を、全国においてはベスト4以上を当面の目標としている。

個人戦では周艶の関西学生女子単2連覇により復活の狼煙を上げ、その後下記のと通りの優勝者を輩出。また各大会で4強、8強に入る上位進出者が続出している。さらには関西、西日本学生にとどまらず、国内最高峰の全日本総合選手権出場(インカレベスト8以上が最低条件)を果たす選手も続々と出現している。

団体 <女子> 10年 関西学生春季リーグ優勝

13年 全日本学生対抗戦3位

14年 全日本学生対抗戦ベスト8

25年 全日本学生対抗戦3位

<男子> 17年18年 全日本学生対抗戦ベスト8

18年 関西学生春季リーグ優勝、23年 関西学生春季リーグ優勝

個人 関西学生選手権優勝者

<女子単>周艶(05年) 周艶(06年) 久枝ゆい(10年)、蘭沙也可(18年)

<男子単>戸内佑亮(19年)

<女子複>小池沙葉・中村美輝(16年)

<男子複>高島大輝・池田朋哉(15年)、池田朋也・石川泰成(17年)、平岡立成・

神山新悟(21年)、甲斐聡一郎・神山新悟(22年)

西日本学生選手権優勝者

<男子単>山下貴士(10年)

<女子単>久枝ゆい(10年)

<男子複>吾野文人・山下大輔(15年)

<女子複>村岡尚美・鈴木智子(11年) 若田美沙・樋口亜依美(13年)

バドミントン部 部史 編集担当者 (S57 経済学部卒 園尾善雄)